

令和5年度 第3回学校運営協議会 記録

2024.2.16 10:30 開会

参会者 高橋敏夫氏 古川啓治氏 高橋孝氏 伊藤浩一郎氏 高橋亮氏 寒河江秀憲氏
高橋戒舟氏（地域学校協働活動統括コーディネーター）
長岡賢太氏（飯豊町社会教育課主事）
武田俊英教頭 井上勝見地域学校協働活動推進員

※出席人数の確認

1 開 会（進行）

2 挨 拶

◇高橋会長

- ・ 例年になく雪が少なく、楽な面もあるが、スキー授業もあまりできない状況で残念な面もあり、複雑な思いである。今日は、「次年度の学校経営」についてと、前回話し合うことができなかった「義務教育学校における学校運営協議会」のあり方について話し合うことになる。忌憚のないご意見を伺いたい。

◇武田教頭

- ・ 最近の学校における子どもたちの様子から
 - * 飯豊町子ども議会に6年生2名が参加し、町内で黒獅子の共演会をしてほしいという提案をした結果、来年度のめざまの里まつりでそれを実施する方向での検討がなされるようになってきている。
 - * 3学期には長井市の獅子宿に見学に行ったり、獅子宿の渋谷氏に学校に来ていただいて話をお聞きする機会を設けたりするなどの活動を行っている。
 - * スキーについては、スキーフェスタができなかったが、何とかスキー場で2回スキー教室を行った。
 - * 1月30日に一日入学が実施された。4名の進入予定児と触れ合う機会を設けたことにより、上級生としての自覚が高まる機会となった。
- ・ 今年度の締め括りの時期を迎えようとしている。次年度の教育活動に向けたご意見も沢山頂戴したい。

3 説 明

(1) 学校評価について（武田教頭）

※資料（別紙）に基づいて説明

(2) 地域学校協働活動の活動状況について（井上地域学校協働活動推進員）

※資料（別紙）に基づいて説明

◇質疑・応答

Q 学校評価アンケートについて、ICT を活用した回答のお願いをしたが、回収率が低い結果となってしまった。このことについてどうであったか。（井上地域学校協働活動推進員）

- ・ 私の場合は締め切りが過ぎてから未提出であったことに気付いた次第である。このような形での回収でも差し支えないと思う。（伊藤浩一郎氏）
- ・ ペーパーでの回収のほうが間違いないのかなという感じもする。（高橋会長）

※ WEB によるか紙バージョンによるかどちらか選んで回答できるようにお願いすることも検討していった方がいいかもしれない。また、忙しい中なのでどうしても忘れがちになってしまうこともあるようだ。催促させていただく等の手立てもとらせていただいた方がよいのかもしれない。よりよい方法を検討させていただくことにしたい。（井上地域学校協働活動推進員）

4 協議 議長 高橋敏夫会長

(1) 次年度の学校経営について

◇武田教頭より（議題提案）

※資料（別紙）に基づいて説明

◇協議

- ・ スキーフェスタに関わって、かつてはスキーの指導ができる人が沢山いたということもあり、優秀なスキー選手が育った。少人数の難しさもあると思うが、どこかで競争することにより、「勝った」という経験がもとになってその後一生懸命取り組んで伸びていくというチャンスにもなる。そういう機会がなくなっていくのはもったいない気がする。義務教育学校になった時、スキーが下火になるのではなく、スキー熱が盛り上がっていくことを期待したい。手ノ子スキー場で練習してオリンピックに行ったという方もいる。何らかの形で残していただければなど考える。（寒河江秀憲氏）
- ・ 添川小との交流は結構やられているようだが、第二小との交流はどの程度やられているのか？（高橋会長）
- ・ 今年度は4年生の社会科見学で（添川小も一緒だったが）第二小と交流した。第二小とだけの交流というのは今年度なかった。添川小が小規模であるということで進めているのが実態である。

現4年生が6年生になって修学旅行に行くとなると3人で行くことになる。経済的な面も考えると厳しいので添川小と合同ということも考えたのだが、添川小は修学旅行がない年度になっている。そうした場合、第二小と一緒にいくことも視野に入れて考えていく必要がある。このことはこれから保護者にも相談しながら詰めていく必要がある。第二小との交流も事前に積み上げていく必要があるなど考えている。(武田教頭)

- ・ やがて一緒になるということを考えると、今から様々な活動で交流することを積み上げていく必要があるのかなと思う。(高橋会長)
- ・ 修学旅行については、第二小は毎年行っている。手ノ子小と添川小は隔年で行っているが、その年度がずれているというのが実態である。準備委員会でもその調整をどう図っていくかということが話題になっている。(高橋統括コーディネーター)
- ・ 只今提案があった次年度の経営方針には総じて賛成である。中学校に行ったときに不登校の生徒が出てくることが気になっていた。その対策が盛り込まれているかという読み取れない。心やさしい子どもを育てるという反面、メンタルの強さを育むという観点からも日々の教育の中で意識して指導に当たっていくことも大切なのではないかと考える。

(伊藤浩一郎氏)

- ・ 今、家庭訪問は実施されていないということであるが、家庭に行ってその環境等様々な面を知ることも子どもを理解するためには大切なことではないかと思う。最近はどここの学校でも家庭訪問がなくなったと聞いているが、検討していただければと考える。(高橋会長)
- ・ 今年は元旦に大変な地震があった。第二小学校あたりを活断層が走っているということを知ったこともあるのだが、いざというときにどのような対応とるのか、町・学校として考えることがあればお聞かせいただきたい。(古川啓治氏)
- ・ 地震に限らず、水害・不審者対応等様々な危機的状況が考えられるわけであるが、それぞれに対応した危機管理マニュアルを作成し、それに基づいて対応していくことになる。どの程度の災害がいつ起こるかわからないわけであるが、いざという時には何よりも命を守るための行動がとれるようになることにねらいをおいて年4回の避難訓練を実施している。

本校では今年度、校地内にクマが出没する事態が2回もあった。身近なところに来ているということからクマ対応の訓練も必要なのではないかなどと考えているところである。

(武田教頭)

(2) 義務教育学校における学校運営協議会のあり方について

◇高橋戒舟地域学校協働活動統括コーディネーターより（議題提案）

- ・ 義務教育学校として1つの学校運営協議会を組織することになるわけであるが、3つの学舎があっても単に1つの組織のみでよいのかどうかということに対してご意見をお伺いしたい。

◇協 議

- ・ 学舎ごとの組織はなくなるということになるのか？（高橋会長）
- ・ 地域の声を吸い上げる場は何かしらあった方がよいという意見もあるが、委員の方の負担を考えると忙しくなって大変なのではないかという声もある。（高橋統括コーディネーター）
- ・ 人数的な面では変わっていくのだろうか？（高橋会長）
- ・ 現状としては10名強の委員となっている。私見であるが、様々な立場の方の意見を聴くという意味で、もう少し人数を増やしたほうがいいのではないかと考えているが、現段階では何も決まってはいない。（高橋統括コーディネーター）
- ・ こういう立場になってみると、充て職で様々な役が回ってきて、様々な会議に行っても同じようなメンバーが集まっているのが現状である。よい発想が出るようになっていくために、もっといろいろな立場の人に委員になってもらう必要があるように思う。（古川啓治氏）
- ・ 町内に5つの地区公民館がある。それぞれの公民館のエリアの中から何人か選出していくようにするとより地域の意見を吸い上げた話し合いができるようになるのではないかと考える。（高橋亮氏）
- ・ 地区の公民館が子どもたちに関わってきたという経緯もある。地域の中で子どもがますます見えなくなるような状況になり兼ねないということを考えると公民館を軸にした委員の選出ということも大切なことではないかと考える。（寒河江秀憲氏）
- ・ 当面は分離型の義務教育学校で、教育活動そのものは3つの学舎ごとに行われる。「地域とともにある学校」を謳うコミュニティスクールの機能を生かすためには、組織は1つであるとしても、中学舎・北学舎・南学舎ごとの部会のようなものがないと学校の教育活動に地域の協力を得られるような体制ができにくくなっていくのではなかと考える。また、将来一つの校舎にまとまっていく学校を見据え、町全体で学校を支える体制をつくっていくために地域学校協働本部も必要になってくるだろうと思う。（井上地域学校協働活動推進員）

(3) その他

- ・ 前回の話し合いで閉校式典を卒業式後に町全体で行うということを提案したわけであるが、

あ～すの収容人数を考えると町全体でやることは難しいという返答が返ってきた。また、閉校式典を卒業式後に行うというは手ノ子小学校だけだったということである。本校独自の閉校式の持ち方について再度検討する必要がある。ご意見を伺いたい。(高橋会長)

- ・ 単独でやるというのであれば、中津川小中の閉校式の持ち方を参考にさせていただきたい。

(寒河江秀憲氏)

- ・ 中津川小中の場合は卒業式が終わってからの閉校式だった。やりやすい環境にあったからできたのであって、今回の場合は中学校との関連もあるというので、物理的にも・事務的にも様々なことが重なり、その時期の実施は不可能だろうと思う。手ノ子小単独でやるとしたら時期的には前倒しをして閉校式を行うということに修正していったらどうかと思う。

ただ、子どもの立場で考えると気持ちの整理がつかないまま実際の閉校を迎えることになるのではないかと。もし可能であれば、子どもたちだけあ～すに集まって、自分たちの学校がこれで終わるというセレモニーを行ってもいいのではないかと考える。さらには4月からみんな一緒の学校なんだという気持ちを一緒に確認する場になればと思う。(伊藤浩一郎氏)

- ・ 他の学校は、前年の10～11月の時期に行うということであった。まだ、細かなことは決まっていないが、式典を前段に行い後半は思い出を語る会を行うような持ち方したいという意向のようだ。時期を早めての閉校式典となるわけであるが、校長の立場だとしたら、「学校の区切りとして閉校の式典を行っているが、実際の閉校迄残り数か月ある。最後の在校生(卒業生)として有終の美を飾ることを意識して残りの期間を大切に過ごそう。」といった声掛けをしようと思う。(高橋統括コーディネーター)

- ・ 閉校後の学校の活用の在り方について町の方から相談があった。話し合いの後で考えたのだが、すでに地域には様々な施設があるので、空き校舎を地域で活用するというのはなかなか難しいのではないかと考えた。それならば最初から更地にするか企業誘致をするかした方がよいのではないかと考えた。維持管理するにも相当な費用がかかることになると思うので…。(古川啓治氏)

5 その他

- ・ 来年度第1回学校運営協議会で話し合う内容の確認

「『いいでの森学園』に引き継ぎたい本校の地域が関わる教育活動」

日時；6月20日(木) 13:30～の予定

6 閉会(進行)